

□海外文献紹介□

**watermelon stomach に対する内視鏡的レーザー治療**

Endoscopic laser therapy for watermelon stomach: Gostout C, *et al* (Gastroenterology 96: 1462-1465, 1989)

watermelon stomach は原因不明の、幽門前庭部に限局した血管拡張がスイカの皮の縞模様を彷彿させるような所見を呈する疾患で、組織学的には粘膜内のフィブリン塞栓と粘膜固有層の筋、線維成分の増生がみられる。臨床像は慢性的な鉄欠乏性貧血と便潜血陽性で、出血に対する治療として、ステロイド、幽門切除術、硬化療法、ヒートプローブ、YAG レーザーなどが報告されている。

今回、著者らは watermelon stomach の患者に対して内視鏡的レーザー治療を試み、胃粘膜所見と貧血

の改善効果について検討した。対象は幽門前庭部の血管病変からの出血による急性および慢性の貧血を有する男性 9 人、女性 4 人の計 13 人で、平均年齢は 73 歳であった。YAG レーザーは平均 40 W、パルス時間 0.5 秒で total energy は平均 10,948 J であった。レーザー照射後は浮腫を来すため 3 か月間隔をおいて平均 4 回施行された。

その結果、経過を追えた 12 人全員に、Hb にして平均 4.0 g/dl の貧血の改善がみられた。術前輸血を必要としていた 8 人は輸血を必要としなくなり、2 人に軽度の貧血を残すのみとなった。鉄剤投与を受けていた 6 人中 3 人は服用を続けた。大量出血の既往のある 2 人もその後は出血しなくなった。粘膜所見の変化として血管病変の程度はかなり軽減したが完全な消滅には至らなかった。また、特に合併症はみられなかった。

著者らは他の凝固療法に比べ YAG レーザーの凝固効果は粘膜のより深部にまで達することが長所としている。反面、コストがかかり、技術を要するとも述べている。watermelon stomach の自然史や治療に対する遠隔成績はまだ不明である。根治的治療は幽門切除術であろうが、それはよほどひどい状態においてであり、なかなか踏み切れない。したがって、内視鏡的治療は根治的治療法ではないが、外科的切除の前に試みるべき治療と思われる。本疾患に対する内視鏡的治療の効果判定には今後の経過観察が必要であるが、いずれにせよ watermelon stomach に対する YAG レーザー治療は安全性が高く、胃幽門部の血管病変を改善し出血をコントロールするのに効果的と述べている。

(愛知県がんセンター消化器内科

白子順子 抄)